

「歴史的まちなみの伝統的木造建築をさまざまな災害から守り抜く」

当研究会では、1998年に発足以降、各地の木造伝統構法の伝統技能者、様々な分野の研究者、設計者、施工者、市民等のご指導・ご協力による協働研究方式で、「地域固有の木造伝統文化と暮らしと安全性が両立した住まい・まちづくりの実現」に向けた既存伝統木造住宅(モデル：京町家)の防災性能向上手法の研究開発に継続的に取り組んでいます。

今回の勉強会では、伝統文化を活かした手法で伝統的木造建築の安全性を高めて保全・活用していくための法令上の技術的課題及び高齢化社会における伝統的な住宅市街地の地区防災計画の考え方を専門家の方々から学びます。お気軽にご参加下さい。

1. 「歴史的木造建築の活用のための防災設備の開発」

長谷見雄二(早稲田大学教授)

ここ数年、現在の建築基準法に適合しない歴史的建造物活用の方策の一つとして、建築基準法適用除外が注目されている。用途変更、増改築のように建築確認が必要な場合だけでなく、木造3階建て旅館等では、コンプライアンス*のために防災対策を検討しようとする経営者もいる。歴史的木造建築に特徴的な防火上の主な課題には、市街地に建つ場合の建物外周部の延焼防止性能、就寝施設・店舗等に使われる場合の避難安全性、大型建築における建物内部の火災拡大防止などがある。これらを、歴史的木造建築に適した構造・意匠の防火設備類で解決しようという取り組みについて紹介する。内容は、京都市における京町家の建築基準法適用除外に関する技術的基準整備のための研究や、木造旅館に向けた遮煙スクリーンの開発、歴史的木造に多い小屋裏・天井裏界壁の欠如の改修法等を含む。 *コンプライアンス：法令遵守

2. 「伝統的な住宅市街地における高齢化社会対応型地区防災計画」

北後明彦(神戸大学教授)

2017年9月から2019年1月にかけて、岡山県津山市城東地区(伝建地区)における地区防災計画策定について神戸大学としてサポートする中で、同地区のように高齢化が課題となる住宅市街地においては、その地区特性を踏まえた上で、行政による策定プロセスの展開が重要であることを示した。また、高齢化を考慮した防災計画として連動型住宅用火災警報器(以下、連住器)を導入することが有効であるかどうか、行政と住民との間で意見交換が行われた。本報告ではその検討過程について示す。

休憩

3. 意見交換

★勉強会終了後、懇親会

講師プロフィール

●長谷見雄二

早稲田大学理工学術院教授。1951年生まれ。早稲田大学大学院修士課程修了、工学博士。建設省建築研究所防火研究室長を経て1997年から早稲田大学教授。著書に『火事場のサイエンス—木造は本当に火事に弱いのか』(井上書院)『災害は忘れた所にやってくる—安全論ノート』(理工 図書)など



●北後 明彦

神戸大学都市安全研究センター教授。1956年生まれ。神戸大学博士課程修了、学術博士。財団法人消防科学総合センター研究員、建設省建築研究所防煙研究室長等を経て2007年から現職。著書に『20世紀の災害と建築防災の技術』(技報堂出版・共著)など。専門：防火・避難計画。



- **会 場**：西陣ヒコバエノ家 京都市上京区上立売通浄福寺西入姥ヶ東西町 632 番地
(築約 170 年、江戸後期築の町家を 2000 年に木造伝統構法で防火・耐震改修、同改修手法の有効性を防火・耐震実験で検証して実現した日本初の町家。現在は居住実験中)
- **参 加 費**：勉強会 1000 円 (会員 800 円、学生無料)、懇親会 1000 円 (学生無料)
- **参加方法**：お名前、所属、懇親会の参加の有無、電話・FAX 番号、メールアドレスを明記の上、10 月 17 日 (木) までにメールまたは FAX でお申込み下さい。
- **参加申込み・問合せ先**：NPO 法人 関西木造住文化研究会 (略称 KARTH : カース)
TEL 075-411-2730 悠計画研究所内、FAX 075-411-2725、E-mail info@karth.sakura.ne.jp
<http://karth.org/>、住所は会場と同じ

● **交通アクセス**

最寄バス停「今出川浄福寺」、「千本今出川」、「千本上立売」より徒歩約 5 分、目印:角地、お地藏さんのある家

JR 京都駅より(所要時間 約 40 分)

① **地下鉄利用の場合**

地下鉄烏丸線「烏丸今出川」駅下車、3 番出口、烏丸今出川交差点の今出川通東側バス停から西行きバス乗車、「今出川浄福寺」下車

② **市バス利用の場合**

JR 京都駅北側(烏丸口)バス乗り場 A3 の 206 番に乗車、バス停「千本上立売」下車又は、B2 の 50 番、101 番乗車、バス停「千本今出川」下車



KARTH とは

★当会は、1998 年 11 月に発足以降、「地域固有の木造伝統文化を活かした安心して暮らし続けられる住まい・まちづくりの実現」をテーマとして、既存伝統木造住宅(モデル：京町家)の防災性能向上手法の総合的・工学的な研究開発・提案と研究成果の啓発活動に取り組んでいます。各地の様々な分野の研究者、木造伝統構法の技能者・職方、設計者・施工者、市民の方々等の参画による総合的知見を活かした協働研究方式をとっています。

各自自立しながらも所属を超えて対等な立場で自由に参画でき、必要に応じて連携することにより社会に向けてより大きな力を発揮できる場づくりを目指しています。

主な研究・活動の概要⇒<http://karth.org/>

主な研究例



勉強会会場

江戸期の町家の伝統構法による防火・耐震改修 (1999-2000)



伝統的軸組構法の木造土壁せん断耐力試験 (2000、2003)



伝統的軸組構法の木造土壁の火災安全性実験 (2000、2002)



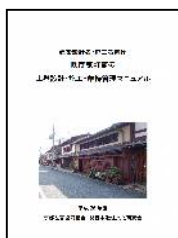
既存京町家の振動実験 (1999-2003)



住まい手向け既存伝統木造住宅防火・耐震改修手引き (2006-2007)



建築設計者・施工者向け既存伝統木造住宅防火改修設計・施工マニュアル、技術解説書 (2007-2010)



(京都左官協同組合との連携) 建築実務者向け既存京町家の土壁設計・施工・維持管理マニュアル (2014)



H26 年度文化庁事業木造文化財建造物総合防災診断指針(震災、火災、水害・土石流災害、雪害、樹木災害、2014)



新潟被災住宅修復調査報告書 (2007~2009)



市民向け「地震発生後の被災建物の対処の仕方」チラシ (2008-2009)



「浸水被害を受けた竹小舞下地土壁の扱いについて」チラシ (2018)